

第1回 新丹波猿楽座特別公演 新作能「直正」を堂々披露！

11月29日、春日文化ホールで、丹波能楽振興会が、丹波市創生シティプロモーション支援事業として採択された第1回新丹波猿楽座特別公演を行いました。今回披露された新作能「直正」は、戦国武将赤井（荻野）直正や丹波市の歴史・文化をテーマに、市在住の能楽師上田敦史さんによって書き下ろされ、プロの能楽師によって初めて披露されました。「丹波の赤鬼」と呼ばれた黒井城主直正の無念の思いや丹波の自然が描かれた作品に、上演後の会場は大きな拍手に包まれました。

また、同時に地域の子ども達が出演する新作狂言「ちーたんと丹波竜」も上演されました。子ども達は今年の1月から毎月3～4回稽古を重ね、伝統芸能を学んできました。出演した子ども達は「緊張したけど、お客さんが笑ってくれたのが見えて嬉しかった」と話しました。

世界無形文化遺産「能楽」のルーツのひとつである「丹波猿楽」を育んだ丹波市で、市民の手でこの文化を発信し、能や狂言などの文化が根付いていくことが期待されます。



新作能「直正」上演の様子



子ども恐竜に扮して新作狂言に挑戦する子どもたち

給食で丹波の味に親しもう 丹波大納言小豆のぜんざいが登場

11月25日・27日の2日に分けて、小中学校の給食で、市の特産である丹波大納言小豆を使ったぜんざいが提供されました。春日部小学校では、4年生が小豆の刈り取りを体験するなど、栗・黒大豆・小豆の丹波三宝について勉強しています。

先生から小豆の特長を紹介してもらい、ぜんざいを味わった子どもたちは「おいしかった。年に1回のぜんざいが楽しみです」と話しました。



ぜんざいを味わう春日部小学校の児童

社会を明るくする運動 長年の協力に感謝



感謝状を受け取ったザ・ビッグエクストラ氷上店の月森義隆店長

平成24年の開業から継続して「社会を明るくする運動」に協力している「ザ・ビッグエクストラ氷上店」に、11月21日、神戸保護観察所長から感謝状が贈られました。同店は、7月の同運動強調月間に、リーフレットなどを配布する啓発場所として、店舗入口の一面を提供しています。

月森義隆店長は「社会的責任を果たせるよう、今後も協力していきたい」と話しました。

みどり豊かなふるさと大賞 「野上野地区あけぼの会」が受賞

11月28日、第12回ひょうご水土里のふるさとフォーラムにおいて、野上野地区あけぼの会が、都市住民との農作業交流や小学校との環境調査などの活動が評価され、県内1,886団体の中から「みどり豊かなふるさと大賞」を受賞しました。

代表の尾松一郎さんは「今後は女性にも活動に参加してもらえるよう、他の団体の活動なども参考に頑張っていきたい」と話しました。



受賞を喜ぶ同会のみなさん

食品ロスを減らそう 食べきり運動協力店を初登録

食品ロス削減をめざすため、小盛メニューの導入や持ち帰りの呼びかけなど、食べ残しを減らす取り組みを行う飲食店などを「食べきり運動協力店」として初めて登録し、11月27日に登録証の交付式が行われました。現在の協力店は11店で、今後も継続して協力店の募集が行われます。

店の代表者は「食べきり運動は店にも環境にも良い。お客さんにも呼びかけたい」と話しました。



協力店に配られる啓発用ミニのぼりとコースターを持つ各協力店の代表者

英語のコミュニケーション能力向上を目指す 英語スピーチコンテスト開催



身ぶり手ぶりを交えてスピーチする梅垣朋宏さん

12月7日、ハートフルかすがで「第29回丹波市中学校英語スピーチコンテスト」が開催されました。市内各中学校代表の2人が英語でスピーチを行い、将来の夢や挑戦したいことなどを発表しました。

審査の結果、難波侑里さん（山南中3年）、高嶋深央さん（市島中3年）、梅垣朋宏さん（氷上中3年）の3人が優秀賞に選ばれました。

夏に続いて 全国大会出場！ 氷上高校女子バレーボール部



女子バレーボール部の佐藤榛花さん、佐野綺音さん、川釣奈津さん（左から）

12月4日、氷上高校女子バレーボール部が1月開催の第72回全日本バレーボール高等学校選手権大会への出場を報告するため、市役所を訪問しました。氷上高校は今夏の全国大会で初戦敗退を喫してから、サイドアタッカーの強化など、弱点を強化する実戦的な練習に取り組んできました。

主将の佐藤榛花さんは「夏の大会より攻守のバランスが良くなった。優勝をめざしたい」と話しました。